

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1173200856
法人名	株式会社ライフータルサービス
事業所名	ライフタウン愛里
所在地	355-0321 埼玉県比企郡小川町小川715-2 (電話) 0493-72-7212
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 4人, 非常勤 18人, 常勤換算 15.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	250 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり1,400円		

(4) 利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 66 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川赤十字病院、小川病院、立川医師、巖齒科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

総合病院や駅、商店街が徒歩圏内にある当ホームは、平屋建てで天井が高く、ホーム内の照明も適切な明るさである。また、内装や調度品等に木材が多く使われており、落ち着いた雰囲気がある。2つのユニットの間にある中庭には、芝生や花壇、畑がある。また、焼き芋用の設備があり、天気の良い日には、おやつや昼食をここでとる事もできる。ピアノや仏壇、ぬいぐるみ等馴染みの物が置かれているなど、居室は個性に溢れている。日々のマンツーマンによる学習療法を取り入れたりと、ケアプランにセンター方式を導入するなど、新しい試みに挑戦している。また、利用者との関係は非常に良く、互いに助け合いながら共同生活を営んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念の職員への周知はかなり改善されている。リスクマネジメントへの取り組みなどの改善課題に対しては、運営推進会議で検討し改善へ向けて努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員までは浸透していないが、一部の管理者が取り組んで、様々な試みを行おうと努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 記録の仕方を、分かりやすく簡単に出来るように試行錯誤している。職員への理念の周知をどのように行うか決めて、実行している。また、外部の人や家族に対し、職員の顔と名前が一致するように、写真の掲示やエプロンに名前を入れる等の工夫を討議し、実行に移している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 日常的に家族との繋がりを大事にして、意見を運営に反映するように努力している。職員から積極的に話し掛けて意見を聞き、職員に言い難い方の為に目安箱等も設置している。あまり面会に来られない家族には、写真を送ったりして近況報告をし、生活ぶりを伝えようとしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の清掃活動を、利用者と共に始めることにした。施設の諸行事に地域住民を招待したり、社会福祉協議会に施設ボランティアの要請をして受け入れたりしている。犬の散歩、買物等、利用者と共に外出することも多く、外出時には挨拶しながらの地域住民との触れ合いを大事にしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立、希望、感謝を柱に心のケアを大切にしていこうと理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の打合せ時や月1回の会議で理念を確認し合い、職員間で理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動やボランティアの受け入れを行ったり、施設の諸行事に地域住民を招待するなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で見出された課題に対しては、会議で検討している。記録の仕方や、家族に対し職員の顔と名前が一致するための工夫に努めている。具体的には、職員の写真の掲示、エプロンに名前を入れるなど改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には町職員や家族の代表も参加している。外部評価結果の検討の他、家族会での意見なども議題とし、改善に向けた取り組みの努力が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に町職員も参加するなど、ホームの運営について相談できる関係が築けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付の際に、利用者の暮らしぶりを記した手紙や、写真を同封するとともに、面会時にも利用者の様子を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族会の代表の参加や、また、目安箱の設置を行うことにより、家族の意見を受け止め、ホームの運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の際には、各ユニットの管理者が離職する職員の仕事に対応することで、利用者のダメージを防ぐ体制をとっている。また、管理者と職員は良好な関係であり、開設以来職員の離職は非常に少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年1回以上の外部研修を受け勉強し、また個人的な学びの機会の支援もある。研修報告は会議の場で行い、研修内容の共有化を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホーム同士、互いに研修したり訪問し合うなど、同業者間での交流の機会を持つことで連携をとるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が馴染めるよう、本人や家族と話す機会を設けたり、写真や資料等を参考にその人なりの生活を把握するように努めている。利用者との信頼関係を構築したうえでサービスの利用に移行できるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、日常生活の中で利用者から知識を授かったり、体験談を聞かせてもらうなど、学び合う関係を築いている。また、職員と利用者が、レクリエーションなどの活動と一緒に参加することで、喜びを共感できる関係づくりができています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の暮らし振りを理解し、一人ひとりの思いや意向を生活に活かしていけるように努めている。即座に対応できない場合は検討をしながら、本人にとって良い方向に向かうよう取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成時は、できるだけ広く意見を聞くように努めている。また、本人や家族の意見も聞いた上で、意向や要望が反映されるような介護計画の作成に取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月ごとに見直しをしている。また、本人の体調の変化や入退院があった場合等、状況に応じて計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望があれば利用者の居室に宿泊することも可能とするなど、本人や家族の要望に応じた支援をしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関もあるが、本人の受診の希望を把握し、入居前からのかかりつけ医による医療も受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	寝たきりの状態になっても、施設で対応できる限りは見たい方針である。重度化や終末期のあり方としては、本人にあった一番良い方法を家族や担当医とも話し合い、意向を確認しながら方針の共有を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねることのないよう日常的に気をつけながら声をかけている。個人情報に関しては取り扱いに注意を払うよう努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で、利用者の望んでいることの把握や一人ひとりのペースを大切に、常に気を遣いながらその人らしい生活を送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物から準備、片付けまで共に行うようにしている。手作りおやつや庭での焼芋、パイキング食を取り入れるなど、食事が楽しいものになるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番はローテーションを行っており、週3回は入れるように取り組んでいる。曜日や時間帯は決めているものの、利用者の希望を聞き入れるよう支援し、入浴を楽しめるように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を尊重し、日々の生活での役割を作って支援している。また、マンツーマンで学習療法を始めるなど、希望にできるだけ対応し、活力を引き出すよう努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や公園への散歩、犬の散歩の付き添い等、戸外に出かけられる機会を積極的につくるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の評価を踏まえ、鍵はかけていない。また、鍵をかけないケアを実践することによる問題は起きていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は訓練を行い、内1回は消防署に立会いを依頼するなど、連携を図りながら協力体制を築いている。また、職員は全員が救命講習を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態が把握出来るように、食事量と水分量、排泄量のグラフを作成し、支援検討の材料としている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや食堂に生花など飾ることで、季節感のある生活の場としている。何処も明るく陽光が入るようになっており、天井も高く開放的である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1つとして同じ部屋は無く、ピアノや仏壇、ぬいぐるみ、ソファ等本人に馴染みのある物が置いてあり、それぞれに個性がある。使い慣れた物を部屋に持ち込むことで、その人らしい居室づくりになっている。		